

法人名	公益財団法人 大阪府文化財センター
作成（所管課）	文化財保護課

○ 経営目標設定の考え方



○ 令和5年度の経営目標達成状況及び令和6年度経営目標設定表

I. 最重要目標(成果測定指標)													
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R5 ウエイト	R4 実績値	R5 目標値	R5 実績値 〔見込値〕	R6 目標値	R6 ウエイト	中期経営計画 (R4～R6)		R6目標設定の考え方 (数値の視視) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	
										R6 目標値	最終年度 目標値		
① 埋蔵文化財発掘調査成果の活用	発掘調査の現地公開・セミナー等の実施件数		件	40	48	51	63	↓56	40	54	60	R5年度実績ならびに中期経営計画による最終年度目標値を踏まえて設定	
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										戦略目標達成のための活動事項			
最重要とする理由、 経営上の位置付け	<p>当法人では、令和4年度に策定した中期経営計画のビジョンとして、以下の3本柱を設定している。</p> <p>①【文化財を後世に】⇒ 遺跡の発掘から歴史の解明 ②【文化財を身近に】⇒ 地域の歴史学習への寄与 ③【文化財で心を豊かに】⇒ 「温故知新」で文化力向上</p> <p>具体的には、①「高質な発掘調査を継続して実施し、開発によって失われる遺跡の正確な記録を残す」、②「文化財資料活用事業や博物館管理運営事業を通して、府民や明日を担う子ども達に文化財の大切さや魅力を具体的に伝える」、③「文化財を通して、先人の知恵と工夫を学び、これを府民に伝える」ことを目指している。</p> <p>人口減少社会の到来が現実となる中、平成31年4月に施行された改正文化財保護法では、これからの文化財保護行政は、従来までの保存重視から保存と活用を一体的に推進し、地域社会全体で文化財を次世代に継承していくための取り組みを行う必要があることが強く打ち出され、地域固有の文化財を通して、住民が地域に愛着や誇りを見出し、個性的で活力のあるまちづくりに寄与することが期待されている。当法人が約半世紀にわたって手掛け、蓄積してきた埋蔵文化財の調査成果は、府民にとって大切な地中に埋もれた地域資源であり、これを府民に伝えていくことは、当法人の大きな使命の一つであると考えている。</p>										<p>発掘調査現場の現地公開の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 現地説明会の開催 地域住民を対象とした現地公開の実施 地元学校の見学受け入れ HPやSNSを活用した発掘調査成果の発信 <p>発掘調査資料の活用・公開</p> <ul style="list-style-type: none"> 府内自治体や府立博物館と連携した連報展示や講演会等の実施 泉佐野市立歴史館いずみさの(指定管理)における展示企画での積極的活用 		
最重要目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>課題: 発掘調査現場の現地公開では、タイトな調査期間の中で、その準備に十分な時間を費やすことが困難となることも多い。コロナ禍を経験し、府民の発掘調査情報を得る手段が多様化している。</p> <p>改善点: 現地説明会などの開催が困難な場合においては、ドローンによる空中撮影や測量データから得た3D画像など臨場感のある動画を加えて制作し、YouTubeを活用してホームページ上でWeb現地説明会を開催する等、アフターコロナ時代を見据えた多様なニーズに合わせた新しい文化財資料活用事業のあり方を確立する。</p>										<p>学校教育との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 発掘現場への近隣小学校の見学誘致 高校生の考古学体験の受け入れ 大学との連携による考古学関連の講義 <p>民間企業との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 近鉄文化サロンと連携した連続講演会を実施 <p>多様なニーズに合わせた情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページなどによる情報発信機能の充実 YouTube等による動画配信 SNSを活用した情報発信 報道提供によるマスメディアによる情報発信 		
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> 府内自治体や民間企業等の関連団体との連携をさらに強固なものとし、当法人が培ってきた企画力と専門分野の知識をもつ豊富な人材、民間企業がもつ広報力とネットワークを相互に活用し、Win-Winの関係で事業を進める。 大阪府内の博物館施設等で実施する展示事業等を通じて地域の文化財の周知に寄与する。 府民が情報を得る手段の多様化に対応し、インターネットでの動画配信等これまでの方法とは異なる手法で発掘調査成果等の情報発信を行う。 令和元年度に世界文化遺産に登録された『百舌鳥・古市古墳群』について、府民の興味・関心を一層呼び起こし、世界にも認められた普遍的価値への理解が深まるよう、大阪府や関連自治体と連携する。 										<p>百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪府施策への協力 		

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R5 ウエイト	R4 実績値	R5 目標値	R5 実績値 〔見込値〕	R6 目標値	R6 ウエイト	中期経営計画 (R4~R6)		R6目標設定の考え方 (数値の補償) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R6 目標値	最終年度 目標値		
② 博物館利用者の拡大	日本民家集落博物館入館者数		人	8	26,110	27,000	×25,204	29,300	8	30,500	37,500	R5年度実績ならびに中期経営計画による最終年度目標値を踏まえて設定	館内における四季折々の花々の開花状況やイベントの開催状況、展示民家や民具に関連する情報を様々な媒体で発信し、博物館の魅力を広げ周知
	学校等への営業件数(プロセス)		件	8	77	80	80	82	8	75	85	R5年度の実績ならびに中期経営計画による最終年度目標値を踏まえて設定	・学校訪問による継続的な誘致活動の実施 ・展示民家の元所在地自治体や旅行関連機関や施設への広報
	外国人入館者数		人	4	888	1,350	2,625	2,670	4	—	—	R5年度の実績ならびにコロナ禍以前の実績を踏まえ設定	・旅行会社や宿泊施設への広報や外国語表記の博物館案内提供
	オンライン動画の制作・配信数		件	8	4	6	6	↓4	8	—	—	全展示民家の解説動画作成が一巡したことから、さらなる魅力動画制作を進める	・展示民家の解説動画など、オンラインを活用して博物館の情報を効果的に発信することで、博物館の魅力を高め、来館意欲を喚起
	貸部屋等施設利用件数		件	4	58	81	98	113	4	—	—	R5年度の実績ならびにコロナ禍以前の実績を踏まえ設定	・展示民家を句会、展示会、撮影会等の会場として、貸出利用を広く発信することで、博物館の魅力を広げ周知し、活用を促進

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

効率的な経営 (博物館事業の効果的実施)	利用者一人あたり経費 (事業費/利用者数)		円	4	1,068	866	〔×924〕	930	4	1,009	807	R6年度の日本民家集落博物館の当初予算事業費ならびに目標入館者数を踏まえて設定	・ホームページ・SNSなどインターネットによる情報発信を強化し、新たな来館者層の開拓を行う
(効率的経営の推進)	埋蔵文化財調査担当者一人あたりの調査面積		m ²	10	1,813	2,670	×2,246	1,469	10	—	—	R6年度予定事業を踏まえて設定	・事業者と事前協議を綿密にとることにより遅延なく計画どおり遂行 ・若手職員への発掘調査技術の継承を確実に行うとともに、支援業者が有する測量技術などを援用しながら効率的に調査を遂行
③ (安定的財基盤の確立)	当期経常増減額		千円	10	△155,168	△48,117	〔×△128,876〕	0	10	△120,873	0	公益財団法人として収支相償を目指す	・埋蔵文化財発掘調査の事業確保に加え、日本民家集落博物館事業において、来館者・施設利用者の増加を図り、収支相償を目指す
(民家集落博物館展示民家保存修理のための自主財源の確保)	賛助金・寄附金		円	4	1,206,939	1,210,000	1,288,276	↓1,200,000	4	1,200,000	1,200,000	R5年度実績および中期経営計画を踏まえて設定	・企業等からの賛助金の休止・減額が続くなかあつて、広報活動を進め、賛助金の提供再開・増額を働きかける

【凡例】
 ・☆はR6年度からの新規項目
 ・×は目標値未達成
 ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
 ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
 ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名

公益財団法人 大阪府文化財センター

CS調査の実施概要

○令和5年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
①日本民家集落博物館利用者CS満足度調査 ②発掘調査遺跡現地公開参加者CS満足度調査	①日本民家集落博物館利用者へのアンケート ②発掘調査遺跡現地公開参加者へのアンケート	①日本民家集落博物館の来館者 ②発掘調査遺跡現地公開開催時の来場者	①402人 ②271人	①10月9日～11月25日（年1回） ②5月13日・27日、7月15日、10月25日、12月9日（年5回）

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
<p>①-1 美しく、整備された館内、静かで落ち着いた雰囲気、スタッフの親切で丁寧な対応等に対する高評価。移築された全国各地の、昔ながらの本物の民家をみられることへの満足度の高さ。</p> <p>①-2 スタンブラー再開、車いす通行の至便化、体験コーナーの消毒設置、イベント告知の充実、飲食充実、掲示板や設備の見せ方工夫、案内や屋内展示の改善、高齢者割引、英語音声ガイド設置、写生の許可、ガイドマップの更新等の要望。</p> <p>②-1 身近な遺跡について、現地で本物を体験できることやわかりやすい解説に対する高評価。</p> <p>②-2 現地公開等の実施機会を増やしてほしい等の要望。</p>	<p>（結果を踏まえ実施した取組）</p> <p>①-1 館内清掃や整備を進め、快適で心地よい空間の維持に努めた。また、移築民家の状態変化に注意し、補修等に関する必要な準備をおこなった。</p> <p>①-2 各要望について、次年度以降の実施を見据えて、優先度や財源確保を検討。</p> <p>②-1 見学者の目線を考慮し、埋蔵文化財への理解を促進するような説明会の実施を心がけた。</p> <p>②-2 現場担当者や事業者と現地公開に関する工程調整や協議に努めた。</p> <p>（今後実施予定の取組）</p> <p>①-1 保守環境の整備や、建物の補修。</p> <p>①-2 来館者へのホスピタリティー向上。SNS等を利用した情報発信の充実。</p> <p>②-1 幅広い年齢層に理解と満足を提供できる現地公開の実施。</p> <p>②-2 事業者への理解促進を図り、より多くの事業で現地公開実施の機会を創出。</p>

○令和6年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
①日本民家集落博物館利用者CS満足度調査 ②発掘調査遺跡現地公開参加者CS満足度調査	①日本民家集落博物館利用者へのアンケート ②発掘調査遺跡現地公開参加者へのアンケート	①日本民家集落博物館の来館者 ②発掘調査遺跡現地公開開催時の来場者	①約400名 ②約300名	①秋季期間 ②現地公開開催時（年3回）

■ 目標値未達成の要因について

{ 1 }

成果測定指標	単位	R5年度目標値	R5年度実績値	目標値との差
日本民家集落博物館入館者数	人	27,000	25,204	△ 1,796

未達成の要因					要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応
①	5月大型連休中および3月祝日土日の雨天等天候不順による来館者の減少				<ul style="list-style-type: none"> ・5月大型連休期間中について、前年度実績並みを想定していたが、うち1日は大雨警報の天候により来館者が大幅減少したため。5月第一週の入館者数については、前年度約2,000人であったところ、当年度は約1,000人であった。 ・3月の入館者数増を期待できる祝日または土日が雨天となり、来館者が減少した。前年度約3,000人であったところ、当年度は約2,400人であった。 					<p>ホームページ・SNS・動画配信等を通じて博物館の存在と魅力を広くPRし、認知度を高める。雨天の魅力を配信し来館につなげる。</p>
	関連項目名	入館者数	単位	人	R5当初想定値	5,000	R5実績値	3,400	差	
②	7月の猛暑による来館者の減少				<ul style="list-style-type: none"> ・7月は連日大阪府内に熱中症警戒アラートが発出され、豊中市においては全国2位の最高気温を記録する日が続いたことから、外出を大幅に控える傾向になったため、来館者が減少した。 ・7月の入館者数については、前年度約1,100人であったところ、当年度は約850人であった。 					<p>夏季期間に味わえる魅力ある行事を展開し来館につなげる。</p>
	関連項目名	入館者数	単位	人	R5当初想定値	1,100	R5実績値	850	差	

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府文化財センター

[2]

成果測定指標	単位	R5年度目標値	R5年度実績値	目標値との差
利用者一人あたり経費	円	866	924	58

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	目標入館者数の減少			<ul style="list-style-type: none"> ・目標入館者数27,000人を見込み、利用者一人あたり経費を算出しており、実績25,000人であり、2,000人の不足であったため。 ・5月大型連休の天候不順（△1,000人）、7月の猛暑（△250人）、3月の天候不順（△600人）のため。 						<p>ホームページ・SNS等を通じて博物館の存在、情報等魅力を広くPRし、認知度を高め、新たな来館を促す。季節に応じた情報を発信する。</p>
	関連項目名	経費	単位	円	R5当初想定値	866	R5実績値	924	差	

■ 目標値未達成の要因について

[3]

成果測定指標	単位	R5年度目標値	R5年度実績値	目標値との差
埋蔵文化財調査担当者一人あたりの調査面積	m ²	2,670	2,246	△ 424

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	事業者による事業量の変動や調査内容の変化			事業者都合の計画変更により事業件数減や調査面積縮小があった一方、新規事業の受託により、年間の当初予定調査面積（26,910m ² ）と実績調査面積（27,135m ² ）に大きな差が生じることはなかったが、新規については調査面積が狭くかつ地下深くまで調査範囲の及ぶものがあり、面積の割に期間を要することから担当者一人あたりの調査面積が減少したものを。						令和6年度に予定されている事業に対して事業者と綿密に進捗協議を行い、調査面積減を防ぐと共に新規事業については柔軟な人員配置により対応する。
	関連項目名	面積	単位	m ²	R5当初想定値	2,670	R5実績値	2,246	差	

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府文化財センター

〔4〕

成果測定指標	単位	R5年度目標値	R5年度実績値	目標値との差
当期経常増減額	千円	△ 48,117	△ 128,876	△ 80,759

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	中部調査事務所機能移転にかかる費用（減価償却費等）の増			中部調査事務所撤去に伴う資産除去債務を137,600千円で見積もっていたが、R5年度に撤去費の設計委託を行った結果、222,121千円に変更となり、増加分84,521千円が減価償却費の増となったため。 （当初、アスベスト無と想定していたが撤去費設計委託により外壁塗料への含有が明らかとなり、除去工事費増となるため）						概算見積時の精度を高める。
	関連項目名	減価償却費等	単位	千円	R5当初想定値	0	R5実績値	△ 84,521	差	
②	中部調査事務所機能移転にかかる移転先への運搬・工事等の費用の減			運搬や改修工事等の費用を48,117千円で見積もっていたが、一部先送りとなり28,683千円となったため。						変更要素を精査し、早期に検討する。
	関連項目名	委託費修繕費等	単位	千円	R5当初想定値	△ 48,117	R5実績値	△ 28,683	差	
③	埋蔵文化財調査事業の事業収益の不足			埋蔵文化財調査事業への職員配置は年度途中に新規に受託し、増加することができたが、一方、当初計画事業では事業者都合により先延ばし等により減少となった事業があり、当期経常増減額が収支相償とならず、マイナスとなったため。（約14,700千円）						令和6年度に予定されている事業に対し事業者と綿密な進捗協議を行い、遅延、縮小等を防ぐと共に新規事業については柔軟な人員配置により対応する。
	関連項目名	受託事業収益等	単位	千円	R5当初想定値	0	R5実績値	△ 14,700	差	

法人名	公益財団法人大阪府文化財センター
-----	------------------

■ 令和5年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R5年度の実績値(見込値)	R6年度の目標値
発掘調査の現地公開・セミナー等の実施件数	件	63	56

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>R5年度では同一調査遺跡において、地元の要望により現地公開を3回、体験事業を5回、合計8回を実施したが、通常、調査期間内において複数回実施できることは稀であり、R6年度では同様な実施を見込めないため。</p>
-----------------------------------	---

〔2〕

成果測定指標	単位	R5年度の実績値(見込値)	R6年度の目標値
オンライン動画の制作・配信数	件	6	4

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>日本民家集落博物館の展示民家の解説動画はR5年度の制作分により全展示民家の解説動画作成が一巡したため。展示民家の保存修理過程やマニアックな見どころ等、さらなる魅力動画制作を進める。</p>
-----------------------------------	---

■ 令和5年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R5年度の実績値(見込値)	R6年度の目標値
賛助金・寄附金	円	1,288,276	1,200,000

成果測定指標	単位	R5年度の実績値(見込値)	R6年度の目標値
/			

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>日本民家集落博物館の展示民家保存修理を目的とした賛助金について、R5年度は今回限りの申し込み（100,000円）があったため。中期経営目標の数値をR6年度の目標値とする。</p>
-----------------------------------	--

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	/	
-----------------------------------	---	--